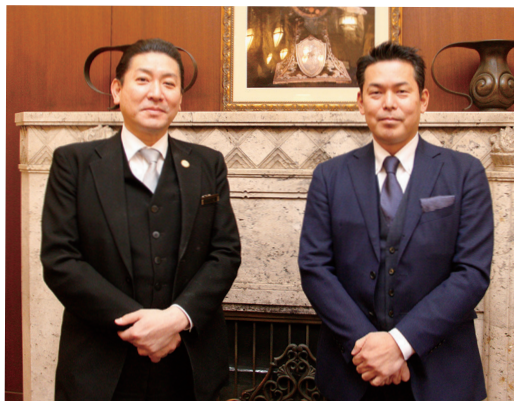


外国人に愛された竹島

古くから旅館たたずむこの蒲郡の地に、唯一存在する洋風のホテル。蒲郡クラシックホテルの歴史は、さかのぼること昭和初期。その頃の日本は、外国人を観光誘致するために外国人に好まれる国際的なホテルの建設を進めようとしていました。国からの融資や滝信四郎の寄付を受け、昭和9年に開業（当時は蒲郡ホテル）。日本らしさの象徴でもある城をイメージした外観と、外国様式に合わせた内装を融合させた造りが、当時の多くの人を驚かせました。ホテルは、1回目に指定された国際観光ホテルの1つとして開業し、その年に日米野球のため来日していたベーブ・ルースを含むアメリカ代表野球選手が宿泊しました。

現蒲郡クラシックホテルに入ると蒲郡ホテル当時の名残を見ることができます。その1つが、エレベーターの階表示の針です。昭和風情漂う一品は、今も元気に動き続けています。



支配人
石原 考康

総支配人
安川 貴也

総支配人に聞きました

当ホテル周辺は、蒲郡ホテル時代にはテニスコート、プール、遊技場などもあったと聞いています。全て取り壊してしまったので今では知らない人も多いですが、レジャーが凝縮したエリアでした。このようなホテルの昔話をブログにしたためていますので、ぜひ当ホテルのホームページへ。

石原支配人
おすすめスポット

自身が観光ボランティアガイドをしているという石原支配人。竹島まで歩いて振り返った時そびえたつ蒲郡クラシックホテルは見る人をハッと驚かせるといいます。



竹島から見た
蒲郡クラシックホテル

安川総支配人
おすすめスポット

絶景を絶好の場所で。優雅に流れる空気がたまらないと話す安川総支配人。疲れた時は、ここでゆっくりティータイムを過ごしてほしいそうです。



ホテルラウンジからの竹島風景

文豪が愛した竹島

竹島の景色は、大正・昭和期の文人たちにも影響を与えています。とりわけ、和風旅館「常磐館」には菊池寛、志賀直哉、谷崎潤一郎など名だたる作家たちが訪れそこからの景色に魅了されたと言います。彼らの作品の中には、竹島の風景が登場する場面もあり、竹島に心動かされた文人たちの作品の中で、素朴な美しさが描かれています。



竹島にある海辺の文学記念館は、常磐館を復元した建物。多くは再現されたものですが、装飾品などの中には当時の時代に使用されていたものもあります。館内では、蒲郡とゆかりのある作品・文豪を紹介しています。時がさかのぼったような不思議な感覚が味わえる、そんな場所です。

海辺の文学記念館 ☎ 67-0070